



東海構造研究グループ

平成20年度活動報告集

平成21年4月

挨拶

東海構造研究グループ(略称 SGST)は、中部地区で構造工学に関する約 10 の大学、高専等の教育機関と約 13 の法人会員(官公署、企業)および構造に関する業務に携わる約 80 名の個人会員から構成される団体です。昭和 53 年に当時名古屋大学教授の福本嘯士先生他により創設され、以後組織改正を経て、平成元年 4 月から新規約が作成され今日に至っています。研究活動の主な目的は、研究発表などの種々の活動を通じて、立場を異にする会員間の相互理解と親睦を深めることにあります。定期研究会は隔月で開催され、重要度の高いテーマについては有志によるグループを結成し、2 年間の研究委員会活動を行って、重点的に調査研究を行うこともできます。また、橋梁の損傷事例や新技術の導入については、随時ではあるが現場見学会を開催しています。2001 年から土木学会の継続教育制度(CPD)が始まり、当研究会におけるテーマも申請し、会員の皆様の土木技術者としての資質向上の証明に役立てられてきました。しかし、この制度も平成 20 年度からは有料となり、実質の利用者も少ないことを踏まえ、申請を取り止めています。

今年度は、定期研究会として、**第 1 回**「米国における繊維強化プラスチック材料の道路橋への適用」：名古屋大大学院助教 北根安雄氏、**第 2 回**「浮屋根式タンクのスロッシング減衰対策とその減衰挙動に関する研究」(株)十川ゴム研究開発部 井田剛史氏、**第 3 回**「都市高速道路における最近の技術課題と取り組み」：(財)阪神高速道路管理技術センター企画部 金冶英貞氏、**第 4 回**「LYP鋼の耐荷力に関する研究」：八代工業高等専門学校土木建築工学科准教授 岩坪 要氏、**第 5 回**「接着概論と接着事例、き裂検出材の概要」：(株)スリーボンド研究開発本部 藤澤恒俊氏、**第 6 回**「名古屋高速東海線の施工について」：名古屋高速道路公社計画部 沖森克文氏、同建設部 森 久芳氏を開催しました。これらのテーマから耐震や維持管理のほかに、補修・補強材や新材料の開発研究が進展していることが伺えます。

今年度は道路特定財源の一般財源化の議論が浮上し、建設業界関係者にとっては風当たりの強い年としてスタートしました。道路が今後新設されないという風潮はよくないことで、新規卒者が建設業への入職を敬遠する原因ともなっています。また、少子化が一段と進み18歳人口の減少に伴い、とくに私大の土木系学科は入学者確保に苦戦しています。今年、橋梁の損傷による大事故はありませんでしたが、大地震が発生しました。5月12日には中国四川省北部の汶川県を震源とするM8クラスの地震が起きました。約1ヶ月後の6月14日には、わが国の岩手県・宮城県の境界でM7.2クラスの地震が起きました。どちらも直下型で逆断層型の地震でした。内陸の山岳地帯のため土砂災害が多く、自然の摂理を見せつけられ、自然と共生していくことの大切さを再認識しました。昨年9月に米国で発生した連鎖的な金融危機は、世界中に広がり、高い失業や稼働率低下、経済成長の停滞・後退など著しい経済損失をもたらしています。一日でも早く景気が回復してほしいものです。

最後に、今年度の活動に際しご尽力をいただいた幹事の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成 20 年度 SGST 代表
名城大学 久保全弘

東海構造研究グループ

Study Group of Structures in Tokai

2009年3月

東海構造研究グループとは

東海構造研究グループ(略称 S G S T)は、土木構造に関するあらゆる領域について研究する団体として、構造に関する諸団体(官公署、企業)および構造に関する業務あるいは研究に携わる個人とから構成されています。

このグループによる研究会は昭和53年に創設され、以後、組織改革が行われ、平成元年4月から新しい組織規約が作成され今日に至っています。これまでに種々の研究結果を挙げており、また、立場を異にする会員間の相互理解や親睦を深めるのにも大きな役割を果たしています。

沿革

- 昭和53年 4月 東海鋼構造研究グループ創設。代表 福本 昉士
主として鋼構造部材の抵抗強度の信頼性評価が研究されました。
- 昭和59年 8月 東海構造研究グループと改称し、構造全般を扱うようにし、官公庁、企業、教育機関から多くの新規の会員入会がありました。
- 昭和61年11月 代表 長谷部 宣男
- 平成元年 4月 組織規約が作成され、活動範囲を広げました。
- 平成3年 4月 代表 宇佐美 勉
- 平成7年 4月 代表 梶川 康男
- 平成9年 4月 代表 山田 健太郎
- 平成13年 4月 代表 塩見 弘幸
- 平成15年 4月 代表 事口 寿男
- 平成17年 4月 代表 青木 徹彦
- 平成19年 4月 代表 久保 全弘
- 平成21年 4月 代表 後藤 芳顯

平成21年度 東海構造研究グループ代表および事務局

代表 後藤 芳顯 〒466-0061 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学 大学院 工学研究科 社会工学専攻
TEL 052-735-5486
FAX 052-735-5503
E-Mail goto@kozo4.ace.nitech.ac.jp

事務局 織田 博孝 〒454-8517 名古屋市中川区清川町2丁目1番地
(幹事長) 瀧上工業(株) 生産本部 技術設計グループ
TEL 052-351-2214
FAX 052-351-5864
E-Mail h.oda@takigami-grp.jp

松村 寿男 〒454-8517 名古屋市中川区清川町2丁目1番地
(事務担当) 瀧上工業(株) 生産本部 技術設計グループ
TEL 052-351-2269
FAX 052-351-5864
E-Mail t.matsumura@takigami-grp.jp

会の運営

会の運営は主として会員の納める会費があげられています。会費は会員の区分に応じて次のように決められています。

正会員	年額	2,000 円
賛助会員	年額	1,000 円
特別会員		
第 1 種	年額	30,000 円
第 2 種	免除	
名誉会員	免除	

特別会員の第 1 種と第 2 種については、研究会などへの行事参加への区別は全くありません。特別な事情により会費納入が無理な団体に対して、第 2 種は設けられていますが、現在はできるだけ第 1 種へ入会していただくようお願いしています。

東海構造研究グループの活動

研究調査

研究会活動の中心となるもので、構造に関する種々の分野について、研究および調査を行います。隔月で開催される定期研究会で、その報告が行われます。この定期研究会は、立場を異にする者の間での情報交換の場となっています。また、重要度の高いテーマについては、研究委員会による重点的な研究、討論が行われています。

現場見学会

会員全体が参加する行事として、不定期に開催されています。

構造物研究および指導の委託

構造物に関する研究の委託および指導を受け入れています。委託の内容によっては委員会を作り、検討を行っています。

出版

本会の成果として、「鋼構造部材の抵抗強度の評価と信頼設計への適用」(1980)および「骨組構造物の座屈設計に関するフォーラム」(1994)を「橋梁と基礎」にそれぞれ 2 回に分けて発表しています。また、研究会での資料をまとめて「活動報告資料集」を毎年発刊しています。

講演会、講習会

構造に関する講演会および講習会の主催、共催または協賛を行っています。

協賛例：平成 2 年度 土木学会中部支部技術講座「構造物の設計にかかわる最近の話題」

平成 4 年度 土木学会中部支部技術講座「構造物設計における最近の話題

- 景観設計とライフライン構造物の設計および管理 - 」

平成 6 年度 土木学会中部支部技術講座「土木構造物の維持・管理・耐久性」

平成 7 年度 土木学会中部支部技術講座「阪神大震災から得た教訓と今後の耐震設計

- 橋梁構造物 - 」

共催例：平成 17 年度 橋梁技術発表会 「 - 橋梁技術の最前線 - 」

主催：(社)日本橋梁建設協会

平成 18 年度 構造工学フロンティア

主催：「構造工学フロンティア」実行委員会 (名古屋大学)

組織と運営

会員

東海構造研究グループは、以下に示す会員によって構成されています。会員には正会員、賛助会員、特別会員および名誉会員の4種があります。

会員区分	資 格
正 会 員	本会の各種事業の主体となって活動する次の各号に該当する者 (1) 構造物に関する業務に従事する者 (2) 構造物に関する学職経験者 (3) 前号に準ずる者
賛助会員	正会員の研究活動に参加しまたは支援する正会員の経験者およびこれに準ずる者
特別会員	本会の目的および事業に賛同し、本会を援助する会社および団体、特別会員は第1種と第2種に分かれ、第2種の会員は会費納入の義務を負わない。
名誉会員	本会および構造物に関する功績が特に顕著であって、本会の総会において推挙された者

総会および定期研究会

重要な議決事項は総会で審議されます。総会は年1回開かれることになっています。定期研究会は、隔月で開催されています。

役員その他

本研究グループでは代表、幹事長、幹事および会計幹事の役員をおき、会の運営にあたっています。現在の役員は次の通りです。

代表	後藤 芳顯	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 社会工学専攻
幹事長	織田 博孝	瀧上工業(株) 生産本部 技術設計グループ
事務担当	松村 寿男	瀧上工業(株) 生産本部 技術設計グループ
	中川 賢治	瀧上工業(株) 生産本部 技術設計グループ
会計担当	加藤 幸男	中日本建設コンサルタント(株) 建設技術本部第3部
	佐藤 徹也	中日本建設コンサルタント(株) 建設技術本部第3部
会計監査	葛 漢彬	名城大学 理工学部 建設システム工学科
企画担当	水野 剛規	日本車輛製造(株) 輸機・インフラ本部 技術部
研究会担当	小塩 達也	名城大学 理工学部 環境創造学科
	川西 直樹	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科
	北根 安雄	名古屋大学 大学院 工学研究科 社会基盤工学専攻
	鈴木 森晶	愛知工業大学 工学部 都市環境学科
	永田 和寿	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 社会工学専攻
	酒造 敏廣	大同大学 工学部 都市環境デザイン学科
H P 担当	原田 敏行	(株)創建 道路交通計画部